

えでぴあ

立川と語ろう 立川に生きよう

July 2020

Écoutez Bien Vol.36 No.424

7

三代表紙の総ざらい



立川のお宝 国宝『六面石幢』

案内人：豊泉喜一氏

立川に国宝があるのをご存じですか？その国宝がある場所は、立川市で最も古い歴史を持つ普済寺の境内。今から百年以上前の大正2(1913)年、国宝に指定され、戦後一度解消されましたが、昭和28(1953)年、再度指定を受けた立川唯一の国宝です。

まず、石幢とは何か調べてみましょう。石幢は石の板を六角または八角形に組み合わせ、それを六角形または八角形の笠と宝珠を載せたものです。各面に仏像、梵字などを刻み国土安穩・五穀豊穡、寺や信徒の安寧、繁栄を願って建てられました。中国から伝わった仏教の祭具です。日本では鎌倉時代に作られはじめました。

普済寺の石幢は、笠の上までの高さが204.5cm。石の板は一枚が縦166cm、横42cm、厚さ9cm六枚の緑泥片岩の板。その板に四天王寺と言われる南方の守護神増長天、西方の守護神広目天、北方の守護神多聞天、東方の守護神持国天、それと普通仁王様とも呼ばれ寺の山門などに鎮座する阿金剛、吽金剛の金剛力士がそれぞれ彫刻されています。作られたのは今から659年前の延文6(1361)年、普済寺を開山した物外可什和尚の弟子性了が建立、仏像は道円という人が刻んだといわれています。

普済寺は南北朝時代の文和2(1353)年、当時立川周辺を領有していた立川宮内少輔が、鎌倉建長寺から物外可什和尚を招き一族の菩提寺として開山した寺です。その長い歴史の中で盛衰があり戦火にも見舞われましたが、この六面石幢は特に損傷することなく存続し、戦後昭和29年、風化防止のため現在の場所に移され覆屋が作られました。しかし現在の場所は地形的に大地震時などに破損の恐れがあるとして、新しくできる美術館に安置されることが決まりました。美術館は5年後の完成予定です。

現在、国宝六面石幢は普済寺境内の奥まった少し見にくい場所にあります。また、美術館への移設までの間、京都で修繕作業が行われることになり、しばらく実物を見ることができません。立川市歴史民俗資料館に原寸大のレプリカが展示されていますので、

資料館見学の折に是非ご覧ください。

普済寺はこの六面石幢のほかに、同じ頃、緑泥片岩で作られた青石塔婆ともいわれる63枚の板碑がありました。これは明治初期、普済寺墓地の北側にある通称首塚と呼ばれるところから出土したもので、普済寺を開創した立川氏の一族が作ったのではないかとされています。一か所からこれだけ大量の板碑が出土された例は全国でも珍しいといわれ、立川市の重要文化財に指定されました。しかし残念なことに、平成7年4月普済寺が放火により、国の重要文化財であった開祖物外可什和尚の座像や貴重な文化財が全焼、その折にこの板碑も損傷して現在見ることはできなくなりました。



国宝 六面石幢



普済寺本堂

あの人、あの言葉

振り返る人とのつながり

1984年の創刊以来、スタッフは多くの方々のお話をうかがってきました。
立川だから聴ける「あの人、あの言葉」を振り返ります。
まさに「Ecoutez Bien !」



〈最初に作った「GOING WEST 西へ…」は「記憶」という問題を取り上げ、「故郷」は〈体力〉、この「同窓会」は〈孤独〉がテーマです。三本とも主人公が旅をする

ロードムービー。私は〈自分探しの旅〉と呼んでいますけど、今のお年寄り自分がどこにいるのか、何をしたらいいのかわからなくなっている。年齢をかさねる重み、素晴らしさを忘れてしまっている。自分を見つめ直し自信と勇気を持って生きよう、それを外に表そう。そう言いたいんです。〉

向井寛さん(故)

映画監督。立川市営球場でロケが行われた「同窓会」は「GOING WEST 西へ…」「故郷」に続く高齢者をテーマにした三部作の最終章で遺作となった。2005年8月号掲載



〈人間にはいくつかの運命のポイントがあって、僕の場合それがすべて絵を描く方向になった。美術学校に入ったのも、ビリで卒業したのも、軍隊から帰してもらったのも、河北倫明先生のような指導者がいたのも、すべて不思議な縁のように思えます。そして描いているすべては宇宙の運動体の一部であり、その軌跡ですからね。生きている限り描き続けるんでしょうね。〉

佐藤多持さん(故)

日本画家。生家は国分寺の観音寺。昭和第一学園高校の教師を長く務め、ライフワークの「水芭蕉曼荼羅」など戦後抽象日本画を代表する作家。2000年6月号掲載

〈私は自分が納得できる人生にしたいだけ。ぶつかり合うことも多かったですが、嘘をついたり言いたいことを言わないでいたら生きている意味がないじゃないですか。大人の世界は当たり障りのないことをやるのがいいんだというなら、子どもにそういう大人になれというのかということです。〉

鳥山敏子さん(故)

公立小学校教諭を経て1997年から「東京賢治の学校」(2013年より「東京賢治シュタイナー学校」)を運営、独創的な教育を実践していた。2003年9月号掲載



〈砂川(昌平)さんには本当にいろいろお世話になったんです。砂川さんという方はあらゆる分野に造詣が深い。私が特に驚いたのは、お宅にある彫刻なんです。今でこそ紫綬褒章をもらうくらいの彫刻家の無名時代の作品がゴロゴロ置いてある。かつて彫刻家というのは画家以上に食えない職業でしたから、砂川さんのおかげで救われた美術家がどれだけいたことか。私も一人で出版社を始めということで「お前、がんばれ」と、いつも叱咤激励されていました。新刊が出ると必ず買ってくださって。厳しいことも言われましたが、今振り返ると、砂川さんからは出版の心意気を教わったような気がしますね。〉

岩部定男さん(故)

昭和62年有限会社形文社を設立。資料としても第一級の書籍を続々刊行。『英国ロマネスク建築巡礼』は構想から20年を要した力作で、本国イギリスの専門家からの問い合わせも相次いだ。2000年11月号掲載

〈岸中が亡くなった時ね、岸中の学校の後輩の方がね、「奥さんね、本当に悲しいのはわかりますけれど、長生きして認知症になって辺りを徘徊して、あれが昔の岸中先生だよって言われるよりはいいんじゃないですか?」っておっしゃったの(笑)。私、その先生の言葉が忘れられないです。だから私も生きている間は呆けちゃいけないと一生懸命なんです。岸中がね、『緑豊かな健康都市立川』と謳って市長選をやってきましたものですから、その私がこの緑を放り出して売ってしまっでは申し訳ないと思って、私のできることはこの緑を残すことだなあと、それで皆さんのご協力を仰ぎながら、こうしています。この緑から力をもらっているんだと思います。〉

岸中友子さん(故)

夫は医師で立川市長を3期務めた岸中士良さん。ご自宅のある幸町の一画は懐かしい武蔵野の緑を保ちつづけている。NPO法人グリーン サンクチュアリ您を設立。2016年3月号掲載



〈これはある先輩に教えていただいたんですが、PTAというのは月謝なしで「PTA大学」で勉強させていただいているんだと(笑)。そう思えば確かにやって良かったですね。いつも思うんですが、立川は本当にすばらしい人がたくさんいらっしゃる。人材の宝庫なんです。ふだんはみなさん遠慮してでていらっしゃるんですけど、こちらの思いがきちんと伝われば本当に大きな力が集まります。〉

山田美枝さん(故)

PTA活動をきっかけにボランティア活動に関わる。中学生のニューカレドニアとの相互訪問を始め国際交流活動の経験から、2001年NPO法人たちかわ多文化共生センターの設立にも関わり、地域の外国人のために役立っていた。2005年5月号掲載



〈五代目の団十郎と言う人がいてね、この人はへたくそやった。その五代目団十郎が江戸でものすごい人気を得たんだけれども、これは江戸に疫病が流行った時期で、江戸の人口が百万ぐらいたと言われていた時、二十万人ぐら이가死んでいる。二十万人も死んで、どこの家族でも一人ぐらいやられている。そういう時期に劇場へ行って、ずっと何代も続いてきた団十郎の演技を観る。荒事って言うんだけれども、大きい所作でもって、見得をして、それはまるでそこに太陽があるような演技です。温かい太陽があるような、そういうものを観て、江戸の人たちは安心するわけです。「ああ、ここに変わらないものがあった」と。それは上手いとか下手とか、そんな事を越える「存在感」なんですよ。〉

武井協三さん

国文学研究資料館名誉教授。専門は日本近世演劇。東日本大震災直後にお話をうかがった。江戸時代を例に、災害や疫病に見舞われた時芸術や文化がどんな役割を担うか、武井先生独特な語り口で語ってくださった。2011年7月号掲載



〈今の日本が迷走していると言われるのは、戦後のある時期で過去について冷たくなったからのような気がします。それはもう終わったことでしょうか?今が大仕事、と。価値観がお金になって、経済的効果、効率化、合理化が優先され、過去を軽視した結果が今に繋がっているのではないのでしょうか。〉

加藤聖文さん

歴史学者。国文学研究資料館 准教授。専門は日本近現代史、歴史記録学、東アジア国際関係史。この時は、過去に学んで今を生き、未来を拓くことについてうかがった。2011年6月号掲載

〈基礎研究から出てきたIPS細胞を実臨床で使えるようにするまでには、長い臨床評価のプロセスを経て有効性、安全性を検証していかなければ患者さんには届けられない。日本の基礎研究が世界トップレベルである一方で、基礎研究でできたシーズを実臨床に生かすための臨床研究、これが弱いんです。我々のような統計家の不在だけでなく、臨床研究を実施する体制とか専門家がなかなか育たなかった。いわゆる世界の最高レベルの学術雑誌のシェア率では、中国、韓国に負けるところか、南米のブラジルやアルゼンチンにも負けているのが現状です。〉

野間久史さん

統計数理研究所 データ科学研究系 准教授。専門は医療統計学・データサイエンス。新薬の開発にはどのくらい統計学が必要か、そして我が国がどのくらい遅れているかを熱く語ってくださった。2018年7月号掲載

〈小説書く時ってというのは「美しくわかりやすく面白く」これ以外ない。芸術の表現は何でもそうだけれど、「美しくわかりやすく面白く」。これ以外を考えたらだめ。人を感動させる力ってそれ以外ない。哲学で人は感動しないよ。もちろん表現するには教養が基盤にないとだめ。なきゃだめだけど、いざ表現するぞって筆を執った時には、この三点以外を考えるとだめ。それがうまくいった時、美しくわかりやすく面白く書けた時、読者はみんな泣いてくれる。感動の正体っていうのはそういうもの。〉

浅田次郎さん

小説家。応現院文化講演会後の少しの時間、ざっくばらんに話していただいた。手書きの原稿でなきゃ…と話されたので、この時はえてびあんも手書きで原稿を提出した。朱筆も手書きだった。2012年5月号掲載

〈研究は始まります。効くだろうというワクチンの開発はできても、ワクチンを実際に人間に使う時には安全であることと効果があることを示す必要があります。そこがなかなかむずかしいんです。ワクチンの開発ができて、ワクチンを作るメーカーが興味を持たないと…。採算が合わなかったら作れないでしょ。ですから実際に人に使えるワクチン開発というのは、実はかなりハードルが高いのです。多くの人がウケるワクチンだったら採算性があるんだけど、1年間に1000人くらいしか受けないワクチンなら、作るコストの方がべらぼうに高いわけです。〉

西條政幸さん

国立感染症研究所 ウイルス第一部 部長。医学博士。2013年8月号掲載、この時はマダニが媒介するSFTSウイルスについてうかがった。

〈他に最近力を入れているのが、例えば薬剤分子の設計。主に製薬業を対象にして、機会学習の方法論で新しい薬剤を作る。新しい薬を作るというのは実際にやるとものすごくお金がかかりますでしょう。ですから、コンピュータ上で、今まで見つかった、あるいは使っている薬剤のデータを化合物の化学式とか形のデータから、ある目的を達する薬剤がその辺りに存在するかという可能性を計算上でシミュレーションすることです。それで薬理活性や毒性が予測できます。これは教師ありモデルといって、まだ見つからない埋蔵分子を探索することができますね。〉

伊藤聡さん

統計数理研究所 数理・推論研究系 教授。同研究所副所長を兼務。コンピュータ上で薬の開発をするという話には驚かされた。2018年4月号掲載

表紙を飾ってくださった皆さまです

2010年8月号～2020年4月号まで

「立川で三代はむずかしい」といわれながらも10年。途中、立川の風景を織り交ぜながら繋いできました。
特別号も含めてご協力くださった112組。すべてを掲載することはできませんが、本当にありがとうございました。
テーマ「立川で三代」が終わったわけではありません。人がいて街がある。えくてびあんは、「立川の歴史」と共に「家族の歴史」を紙面に繋いでいきます。

[詳細は多摩でばこネットでご覧いただけます]



2010年8月号
萩野家三代(富士見町)



2010年9月号
中島家三代(羽衣町)



2010年10月号
高橋家三代(錦町)



2010年11月号
JR東日本三代(立川駅)



2010年12月号
栗原家三代(高松町)



2011年1月号
細江英公氏ご夫妻



2011年2月号
小林家三代(高松町)



2011年3月号
中野家三代(錦町)



2011年4月号
寺沢家三代(柴崎町)



2011年5月号
森田家三代(柴崎町)



2011年6月号
小林家四代(西砂町)



2011年7月号
佐伯家三代(高松町)



2011年8月号
田坂家三代(錦町)



2011年9月号
細野家三代(柴崎町)



2011年10月号
有木家三代(曙町)



2011年11月号
内山家三代(羽衣町)



2011年12月号
伊藤家三代(高松町)



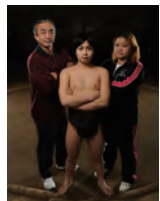
2012年1月号
小笠原家三代(錦町)



2012年2月号
橋本家三代(錦町)



2012年3月号
峯岸家三代(富士見町)



2012年4月号
石田家相模三代(富士見町)



2012年5月号
国立音大卒業生三代(柏町)



2012年6月号
坂村家三代(富士見町)



2012年7月号
中里家三代(柴崎町)



2012年8月号
市川家三代(柴崎町)



2012年9月号
森田家三代(一番町)



2012年10月号
浜中家五代(柴崎町)



2012年11月号
芝田家獅子舞三代(柴崎町)



2012年12月号
鈴木家消防団三代(西砂町)



2013年1月号
諏訪神社高橋家三代(柴崎町)



2013年2月号
村野家三代(西砂町)



2013年3月号
梅田家三代(上砂町)



2013年4月号
川野家三代(錦町)



2013年5月号
菊田家三代(錦町)



2013年6月号
須崎家三代(幸町)



2013年7月号
吉澤家三代(柴崎町)



2013年8月号
清水家三代(幸町)



2013年9月号
山川家三代(柴町)



2013年10月号
三嶋家三代(柴町)



2013年11月号
滝島家三代(砂川町)



2013年12月号
高橋家三代(柴町)



2014年1月号
石川家三代(柴町)



2014年2月号
佐野家三代(柏町)



2014年3月号
井上家三代(富士見町)



2014年5月号
松本家三代(柴崎町)



2014年6月号
伊藤家三代(西砂町)



2014年7月号
河西家三代(錦町)



2014年8月号
岡部家三代(柴町)



2014年9月号
小林家三代(幸町)



2014年10月号
松浦家三代(幸町)



2014年11月号
吉本家三代(錦町)



2014年12月号
伊藤家三代(富士見町)



2015年1月号
福島家三代(柴崎町)



2015年2月号
安藤家三代(富士見町)



2015年3月号
紅林家四代(柴崎町)



2015年4月号
平塚家三代(柴崎町)



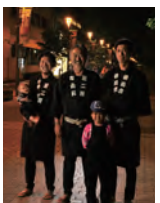
2015年5月号
伊藤家四代(錦町)



2015年6月号
菅家三代(柏町)



2015年7月号
山本家三代(一番町)



2015年8月号
中村家三代(曙町)



2015年9月号
宮嶋家三代(曙町)



2015年10月号
小山家三代(幸町)



2015年11月号
松田家三代(富士見町)



2015年12月号
山田家三代(砂川町)



2016年1月号
清水家三代(西砂町)



2016年2月号
加藤家三代(上砂町)



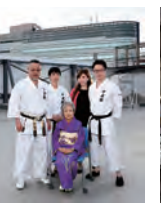
2016年3月号
岩下家三代(柴崎町)



2016年4月号
森竹家三代(錦町)



2016年5月号
高岡家三代(羽衣町)



2016年6月号
中野家三代(曙町)



2016年7月号
松島家三代(富士見町)



2016年8月号
赤川家三代(高松町)



2016年9月号
矢澤家三代(錦町)



2016年10月号
石原家三代(柴崎町)



2016年11月号
荒井家三代(上砂町)



2017年1月号
高橋家三代(一番町)



2017年2月号
宮崎家三代(西砂町)



2017年4月号
小林家三代(幸町)



2017年7月号
小澤家三代(柴崎町)



2017年8月号
小林家四代(西砂町)



2017年9月号
第一小学校三代(柴崎町)



2017年10月号
小林家三代(西砂町)



2017年11月号
小山家三代(西砂町)



2018年1月号
市村家三代(錦町)



2018年2月号
宮澤家三代(羽衣町)



2018年3月号
嶋田家三代(一番町)



2018年4月号
萩田家三代(上砂町)



2018年5月号
梅田家三代(上砂町)



2018年7月号
橋詰家三代(柴崎町)



2018年9月号
岩崎家三代(曙町)



2018年10月号
田中家三代(曙町)



2018年11月号
岡本家三代(上砂町)



2019年4月号
荒井家四代(柴崎町)



2019年5月号
奥山家三代(富士見町)



2019年6月号
山本家三代(柴崎町)



2019年7月号
河野家三代(富士見町)



2019年8月号
伊藤家三代(柴崎町)



2019年9月号
野口家三代(富士見町)



2019年11月号
加藤家三代(柴崎町)



2019年12月号
根津家四代(緑町)



2020年2月号
小林家三代(錦町)



2020年3月号
橋爪家三代(富士見町)



2020年4月号
北島家三代(錦町)



特別号
立川弓道会(柴崎町)



特別号
立川家三代(英城常陸太田市)



特別号
スタカフェの仲間たち(柴崎町)



特別号
第一小学校PTAOB会(柴崎町)



特別号
2013年当時の橋本駅長(立川駅)

えくてびあんの輪	
えくてびあんはリストのお店にあります。 今月は 柴崎町・富士見町 のお店です。	
柴崎町	ジョイフルプラザ 0120-29-2775 めん心 堤屋 525-6602 hocco* café 595-8379 立川わかば整骨院 526-8518 (株) 立川紙業 527-6111 ビスターシュ 526-7466 中華小皿料理 得得屋 528-1060 Fashion You Me 523-1640 石原薬局 523-4067 サイクルハウス 輪輪館 522-8100 (株) 正盛堂 522-2328 小林歯科クリニック 527-8217 ビューティーサロン ウィスタリア 527-1116 オリオン書房 サザン店 525-3111 ビストロ&バル ラボール 529-3088 WISH BONE 527-7199 西武信用金庫 立川南口支店 529-1311 たましん 南口支店 528-2211 リオネットセンター立川 523-3321 りそな銀行 立川支店 522-4161 オリオン書房 アレア店 521-2211 ほっとすべーす 中屋 522-2932 立川ワシントンホテル 548-3380 Coffee Shop LARGO 525-6704 パッケージプラザ カサイ 522-8601 (株) けやき出版 525-9909 ペーカード&カフェ BAKU BAKU 527-2721 喫茶 ギャラリー花 524-3668 髪職人 YOSHIKAWA 522-5593 のーかる 512-5415 矢沢歯科 525-6600 キッチンコート立川店 540-1131 LaLaLa 090-2564-3198 スープ・カフェ なんでもない日 523-5114 武本測量 (株) 524-7731 立川市柴崎市民体育館 523-5770 NPO 法人 東京賢治の学校 523-7112
富士見町	(株) 浅見酒店 522-2823 伊藤接骨院 524-7861 手作りケーキの店 プティ・パニエ 529-8364 さえき 西立食品館 529-5333 西村歯科クリニック 519-9501 井上レディースクリニック 529-0111 中華レストラン 東華園 529-0458 有料老人ホーム サンピナス立川 527-8866 飯塚花店 522-5684 うさぎ専門店 ラッキーラビット 524-6054 びーびー K 70 525-3623 (株) ホームー 522-2220 カフェ・貸しホール ばくだん畑 522-2214 波多野米店 522-2884 立川市社会福祉協議会 529-8323 桜井電材 (株) 523-5281 立川市歴史民俗資料館 525-0860 乙黒東洋整骨院 523-1859 インテリア アイアイ 522-5972 たましん 富士見町支店 528-1741 滝ノ上米店 522-4019 ESPOA おぎの 522-4500 建築リフォーム (有) 日防商会 0120-263821

jorakugajo
真如苑提供番組「常楽我淨」
スカパー！：529ch スカパー！で放送の常楽我淨はスマートフォンアプリ「ivy」（無料）で視聴できます。
J:COM 多摩：11ch・111ch 放送時間については番組表をご確認ください。
www.shinnyo-en.or.jp

街の話題

TOPICS OF TACHIKAWA

死者ゼロ3000日を達成です

東京消防庁立川消防署管内にある国立市。その国立市消防団と市民の皆さんとが火災予防に努力され、本年3月22日、市内における火災による死者ゼロ3000日を達成されました。4月6日（月）東京消防庁消防総監室において、安藤敏雄消防総監より表彰状が手渡されました。3000日と言えば8年とちょっと。火事はあったけれど火事による死者は出ていないということだそうです、なかなかできることではありません。しかも3月22日以降記録を更新されているのですから素晴らしい。1日でも長く更新されますように。



表彰状を授与する安藤敏雄消防総監、受け取っているのは国立市消防団 佐伯渡団長

いなげやの「すこやけく史料室」

5月20日（水）、株式会社いなげやは創業120年を記念して「すこやけく史料室」を創設、この日自粛要請の中静かに開館しました。いずれは多くの方に見て頂きたいと担当者のお話でしたが、当面は関係者のみの開館となります。コンパクトにまとまった120年の歴史の中に、例えば生鮮食料品の賞味期限表示だったり、美味しいまま遠隔地へ運ぶコールドボックスだったり、いなげやが先駆者として始めたことが多々あるとわからされる内容。「生鮮のいなげや」と言われるはずですね。プライベートブランドの充実ぶりも一目でわかるすばらしい史料室でした。



史料室入口で、関係者の皆様と（左から4人目 本杉吉員代表取締役社長）



三密を避けて、マスクをしての見学

東横インに優マーク

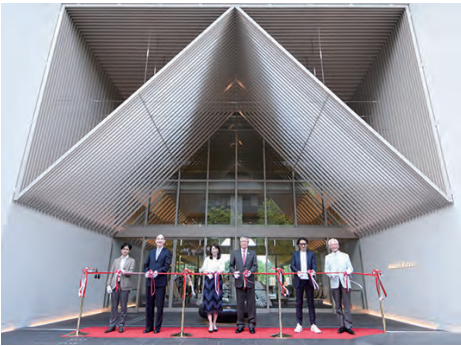
5月28日（木）、立川消防署は曙町のホテル東横イン立川駅北口・生田由起子支配人に優良防火対象物認定通知書を交付しました。優良防火対象物認定表示制度は通称「優マーク」と呼ばれるもので、建物の管理権原者からの申請に基づき消防署長が審査・検査し、その結果防火上優良な建物であると認定した場合に優マークを表示できるというもの。審査項目には、自衛消防活動能力の検証や、自主的・意欲的な防火対策の実施などが含まれており、優マークのある建物が増えることは街の安全を示す指標にもなっています。東横インは100％の稼働率を達成した最大のホテルチェーンとしてギネス世界記録に登録されています。新型コロナウイルスの感染拡大で現在は約2割の稼働率になっていますが、1日3900円のデユースは映画見放題。快適なネットワーク環境が在宅勤務の力強い味方になりそう。優マークも認定されたし、立川を賢く利用するには、いいかも！です。



立川消防署予防課長から生田支配人に認定通知書が手渡されました

新しいホテルの誕生です

6月8日（月）、グリーンスプリングスにソラノホテルがオープンしました。テープカットにはホテルのインテリアデザインを担当したグエナエル・ニコラ氏、元女子プロテニスプレーヤーの杉山愛さん、国文学研究資料館長のロバート キャンベル氏、立飛HD村山正道代表取締役社長、立飛ストラテジーラボ執行役員 横山友之氏、そして立飛ホスピタリティマネジメント取締役COO 坂本裕之氏が登壇。街区を訪れていた人々が拍手で開業を祝いました。客室は81室全室が富士山を臨む公園ビュー。最上階には、空に溶け込むインフィニティプール。水面は空と同じ色に変化します。2階にある大地のレストランは和食が基本。個室も充実して、いろいろに楽しめそうです。オープンに先駆けて、6月1日（月）には立川消防署より、優マークの認定通知書が交付されました。ウェルビーイングがコンセプト。新しい立川のランドマークです。



おじゃまして〜す！ 83

手打蕎麦 田堀

自粛も解けて季節は夏です。お蕎麦がおいしい！土地の旧名 田堀をお店の名前につけて、今秋、開業29年。



もりと天ちら（天ぶらの盛り合わせ）

け汁がいい。これだけでもごちそうなのに、田堀は天ぶらもおいしい。野菜8種に海老3本の「天ちら」もいいけれど、揚げ物好きにはどうしても食べてもらいたい「そばがきあげ」。鶏の唐揚げかと見紛うほどの大きさです。塩でもいいし、特製のつけ汁でもいい。中がもっちりお餅のような熱々が、う〜ん、たまらない！

掲載できず残念！
辛味大根のおろしそば



〒190-0002
立川市幸町3-34-4
TEL 042-536-0291

営業時間
11：00～15：00
（お蕎麦が無くなり次第終了）

定休日 火曜日

☆詳しくは『多摩てばこネット』
【お店情報】をご覧ください。



表紙

初夏の多摩川

江戸時代、多摩川の鮎と言えば幕府への上納品。将軍吉宗が子持ち鮎が好きだったところから、享保年間に「上ヶ鮎御用」という制度ができました。立川を含む多摩川の上流から中流にかけて、御用請村ができ組合を作って鮎を漁獲し江戸へ運ぶシステムがあったと国文研の太田先生からうかがいました。京都の和菓子は有名ですが、多摩にもカステラ地に求肥などをはさんだ「若鮎」があり、多摩川と言えば鮎なのです。やがて、そこに中央線（当時は甲武鉄道）が通り、鉄道がひとつの条件になって飛行場がやってきて現在の繁栄の基礎を作りました。立川は、やはり水と鉄路と飛行機の街なのです。

かたこと

◆自粛が解けた直後の東京アラート発動。予想はしていたものの、改めて油断大敵、それぞれが新しい生活様式を徹底することが望めます◆市内の学校は一斉登校、給食も始まりました。ここでも新しい生活様式が整えられています。立川市・国立市・武蔵村山市の各小学校に、立川青年会議所が消毒用アルコールを寄付。メンバーが学校を訪問して直接校長先生に15ℓのアルコールを手渡していました。給食開始の前にありがたい活動だと、先生方も喜んでいらっしゃいました。一見地味ですがきめ細かいこうした活動こそ、今は大事ななのかもしれません◆えくてびあんでは6月1日から取材活動を再開、6月25日「やっぱり立川！さすが立川！応援立川特集号」を発行します。ブルーインパルスは編隊飛行で、花火師は全国一斉に打上花火を3分間、医療従事者への感謝とともに、みなさんに元気や勇気を与えてくれました。では、ローカルメディアに何ができるか、それが特集号のサブテーマです。7月号も特集号もお手にとってご覧ください。手にとって読める、それが紙媒体の良さ。5月まで閉鎖していた配布先にも、今月はいつも通り置かせていただきます◆まだまだ入場制限があったり、入店、入館前にマスクチェックや検温があったりしますが、それでもステイホームよりずっと楽しい。改めて自由の重みを感じます◆えくてびあんも新しい生活様式に則って、街とともに前進前進。街と人、人と人をつないで一步でも前へ歩んでいきたいと思います。 えくてびあんスタッフ一同

えくてびあん ⑥

7月号 第36巻 通巻424号

令和2年7月1日発行
発行 有限会社えくてびあん
〒190-0023

東京都立川市柴崎町2-1-10 高島ビル4F
TEL 042-528-0082 FAX 042-528-0065
E-mail message@tamatebakonet.jp
URL https://www.tamatebakonet.jp
発行人 黒須 環
企画・写真・編集 えくてびあん編集スタッフ
デザイン 池田隆男（WATER DESIGN ASSOCIATES）
印刷 三浦印刷株式会社・DECK C.C.

無断転載を禁じます。

'MGA フィックスヘッド' クーペ



【立川の風景 昭和色アルバム その6】 136 ページ （写真：高木紀男氏）

1958年に撮影された銀座通りの写真。オレはまだ生まれていない。人形屋時代のコトブキヤが写っている。車もかっこいいが、その背景にこそ意味がある、とオレは思っている。オレが生まれた時に母方のお祖父さんがこのコトブキヤで鯉のぼりを買ってくれた。半世紀以上経った今も、その竿のてっぺんにつける輪は残っている。オレの生まれた5日後、1964年1月4日に立川駅構内でタンク車が暴走し、この辺りは大火事になり八商店が全焼した。物心ついた時には、火事の跡地に第一デパートが建ちコトブキヤもその中に入っていた。流行りのおもちゃは全部コトブキヤで買った。第一デパートの筋向いに銀座デパートや高島屋が並び、当時の銀座通りは立川の中心だった。屋上に観覧車があったのは銀座デパートと中武デパートだったか。この時代のデパートネタなら話は尽きることがない。

前号で幼稚園時代の思い出を語ったが、特に覚えているのは肝油ドロップのことだ。丸い缶に入った甘い香りのする、グミみたいなものだった。夏休み前になると斡旋販売があつて、ウチでも買った。そして休みの初日、それを全部食っちゃう。今考えると、栄養補助剤なわけだから結構ヤバイかも…と思うのだが、当時の子どもにとって肝油はお菓子だったんだな。あの頃は、外出先の出店でアメリカンドックというものを食べるのがひとつのレジャーだった。ホットドックと呼んでいたかもしれない。オレと弟がいつも喜んで食べるもんだから、ある時母親がそれを作ってくれた。「ホットドックできたよ〜」と声がかかり、喜び勇んで台所へ行くと、ソーセージの天ぷらができていた。それには弟と顔を見合わせるしかなかった。